

最新ニュース配信中!



CEOに郵船出

オーシャ



新会社のロ... 英三社長、前... ミー・ニク...

川崎汽船、商船三井、日本郵船の邦船大手3社は10日会見し、7日付で設立したコンテナ船統合会社「オーシャ・ネットワーク・エクスプレス」の経営体制などの概要を公表した。新会社の中心となるシンガポールの事業会社トップには、日本郵船の定期コンテナ船部門を率いたジェレミー・ニクソン氏が就任する予定で、他に各社から1人ずつ取締役が就任。東京の持ち株会社には商船三井の田邊昌宏副社長執行役員が会長として就任するほか、10月設立予定の集荷会社オーシャ・ネットワーク・エクスプレス・ジャパンには川崎汽船の木戸貴文執行役員が就任する。(3面に会見要旨)



シンガポールの事業運営会社には、ニクソン氏がCEOとして就任予定となっているほか、日本郵船の岩井泰樹氏、商船三井の辻井廣喜氏、川崎汽船の山鹿徳...

【略歴】田邊昌宏(たなべ・まさひろ)1979年神戸大学経営学部卒業、大阪商船三井船舶(現商船三井)入社。MITSUBISHI O.S.K. LINES (AMERICA) INC. 出向、物流事業室室長代理、ロジスティクス事業部長などを経て、2008年執行役員(MOL (EUROPE) B.V. MD、11年常務執行役員、13年取締役常務執行役員、15年取締役専務執行役員、17年4月から代表取締役副社長執行役員。

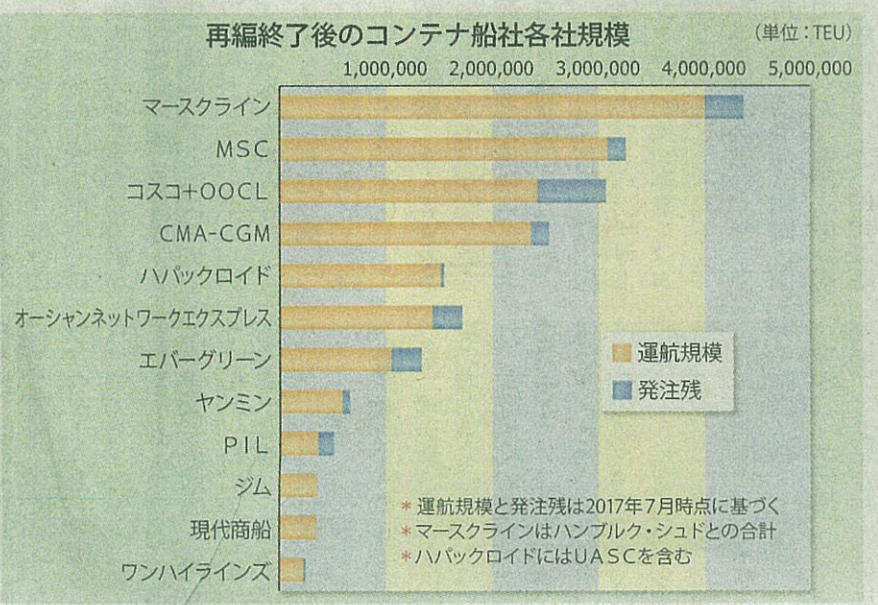
OOCLを買収

コスコブランドは維持

コスコ・ SHIPPING・ホールディングスは9日、香港のOOCLを買収すると発表した。上海港を運営する上海国際港務(SIPG)と共同での買収で、買収価格は492億3100万香港ドル(約7200億円)となり、CMA-CGMに上るNOLの買収価格3000億円をはるかに上回る巨額買収となる。コスコは合併後もOOCLのブランドや経営陣、サービス体制を維持する方針だが、買収後のコスコのコンテナ船隊運航規模は約400隻・290万TEUとなり、CMA-CGMを抜いて世界3位となる。

運航規模世界3位に

コスコ・SHIPPING・ホールディングスとSIPG、OOCLの親会社OOILの3社が9日夜発表した。OOILの全発行済み株式を対象に、コスコが90.1%、SIPGが残り9.9%をそれぞれ取得する。コスコは先月、SIPGにも出資して同社3位株主となっている。1株当たりの買収価格は78.67香港ドルで、これは先週末の株価終値57.1香港ドルに37.8%のプレミアムを上乗せした額。OOILは買収提案に賛成の意向を表している。



3年前までコスコの運航規模は80万TEUに満たず、業界内では中堅上位という位置付けだったが、わずかの期間で一気に3倍以上の規模に膨れ上がった格好となる。コスコはOOCL買収後も、同社の経営体制やブランド、サービス体制、香港での本社機能などを維持する方針だ。コスコの取締役兼CEOのジェレミー・ニクソン氏は「OOILの人材やブランド、企業文化だけでなくその強みや経営陣をリスペクトしている。買収後も国際海事センターとしての香港の地位にコミットすると同時に、業界のリーダーとしての地位を強化して

2002年4月からP&Oネドロイドでヨーロッパ・トレード・マネージメント&グローバル・セールス部門のトップを務めた後、マースクラインのグローバル・キー・クライアント・マネジメント部門トップを経て、08年4月にNYK Line Europe Ltdのマネージングダイレクターに就任。シンガポールの定航本社組織GLMD (Global Liner Management Division) のCEO。13年4月に就いた日本郵船経営委員は7月10日付で辞任。木戸貴文(きど・たかみ)1984年川崎汽船入社。2001年コンテナ船営業グループ輸出チーム長、02年ケイライン・ジャパム東京本社輸出チーム長、05年川崎汽船コンテナ船事業グループ企画開発チーム長、K-Line (Europe) Ltd. ロンドン出向を経て14年4月から執行役員。



左からウエスタン・アソシエイツの辺見信之専務取締役、ベトナム航空のヴォー・クック・ヒエップ日本地区貨物部長、ウエスタン・アソシエイツの大西知一社長、ベトナム航空のヴォー・グエン・クォイ日本地区総支配人、ウエスタン・アソシエイツの千葉豊常務取締役、平野ロジスティクスの益子研一営業部長兼関東支店長

ベトナム航空 2台目の看板トラック運行 1台目好評で関西拠点に

ベトナム航空は、同社機材の写真を施した2台目の大型車(10ト車)の運行を開始した。車両の両面には、同社の機材B787-9型機が大空にはばたくデザイン、後部の荷台扉部分にはタナンの夜景が施されており、ベトナム航空の貨物事業、ベトナムの魅力や文化にアピールしている。運行は平野ロジスティクスが担当。車両のナンバーは「738」。平野ロジスティクスの関西支店に配備され、関西空港―中部空港間を中心に、首都圏(成田や羽田)、福岡空港との間でも運行される。ベトナム航空は昨年7月に、同社機材のデザインが施された1台目の大型車の運行を開始している。1台目も平野ロジスティクスの運行で成田や羽田、東京都内、横浜などの首都圏を中心に、中部空港や関西空港との間でも運行している。この1号車がベトナム航空本社でも好評を博し、今回の2台目の導入に至った。おこわらに聞くと「この人は休みました。」